

11月17日(日) 11月例会は、大江千枝氏をお招きして「教養講座「～聴覚を補う大切なコミュニケーション方法～読話を体験してみよう」を開催しました。28名の方にご参加いただきました。



#### 〈大江千枝氏 自己紹介〉

- ・感音性難聴、障害者手帳2級
- ・「聞こえない」ということをなかなか人に言えなかった。
- ・聞き取ることができない言葉は、口形を見ながら読話を併用して聞き分けている。
- ・最近はスマホの音声認識アプリも利用している。

#### 〈手話との併用〉

読話をだけでコミュニケーションすることは難しいが、手話を併用することによって、読み取り力が向上する。また、日本語の単語数に対して手話単語は圧倒的に少ないので、読話を併用することによって、手話の読み取りの助けになる。「楽しい・うれしい」「元気・頑張る」「用事・必要・要る」手話表現が同じなので、口の形をつけることが大切。



#### 〈読話の勉強方法〉

相手の口の動きを見るだけでなく、一緒に口を動かした方が読み取りしやすい。間違ってもよいから口を動かすことが読話の訓練になる。

#### 〈コミュニケーションについて〉

話すこと(コミュニケーション)の基本は相手との言葉のキャッチボール。自分から相手にわかりやすい話し方を心掛けよう。

##### 話し方のポイント

1. 相手の目を見て(アイコンタクトをとりながら)話そう。
2. 非言語の身振り・手振り、うなづきを取り入れて話そう。
3. 話す時は5W1Hを意識しよう。



#### コミ男とモア子の手話談義



コミ男：読話は難しいといわれるけれど、学習方法や話し方の工夫などのポイントをかいつまんで丁寧に教えていただいたので、理解しやすかったね。

モア子：はい。今日の参加者の中には初めて読話を学んだ方もいらっしゃいましたが、引き続き、読話を学びたいという声が挙がっていました。

